

授業科目名	運動器の構造と機能Ⅲ			授業形態	講義	教員名	藤本 敏彦			
科目区分	専門基礎分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	3 年生
授業概要	運動学では「運動器の構造と機能Ⅱ」の知識を基礎として、筋の動作作用や姿勢の維持作用、歩行などへの関与を学習する。また単に理解するのではなく、柔整やスポーツの現場で治療やトレーニング、リハビリテーションに応用できるまでの知識に発展させることを目的とする。本授業では教員・学生双方の向上心が基板となるため、双方の予習が必修となる。また授業への参加を促すため授業時の発表回数を評価基準に加える。									
授業の到達目標	筋力の発生に関して説明ができる。筋の動作作用が説明できる。身体運動の神経メカニズムが説明できる。姿勢の維持、歩行のメカニズムが説明できる。成長や老化と運動能力の関係が説明できる。以上の内容と治療、リハビリ、トレーニングの関係性について説明できる。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1週目 身体運動と力学 第2週目 身体運動と力学 第3週目 運動器の構造と機能 第4週目 運動器の構造と機能 第5週目 神経の構造と機能 第6週目 神経の構造と機能 第7週目 運動感覚 第8週目 運動感覚 第9週目 反射と随意運動 第10週目 反射と随意運動 第11週目 姿勢 第12週目 歩行 第13週目 運動発達、運動学習 第14週目 期末試験 第15週目 試験解説 <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>授業資料を教員が準備し、受講生に配布してプロジェクタを使いながら講義を行う。また受講生の授業への積極的参加を促すため発表回数を評価基準に加える。そのため受講生は配付資料を用いて予習(分からないところを調べるなど)が義務づけられ、かつ評価対象になる。</p>									
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会監修『運動学(改訂第3版)』医歯薬出版株式会社									
成績評価の方法	<p>定期試験 100%、病欠・公欠・忌引き以外の欠席1回5点減点、雑談による授業妨害は教員の判断で減点。</p> <p>※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。</p>									
実践的教育に関する経歴等	東北大学高度教養教育学生支援機構および医学系研究科運動学講座にて運動学などの講義経験。中学・高校保健体育選手免許									

授業科目名	高齢者のリハビリテーション			授業形態	講義	教員名	菅野 貴宏				
科目区分	専門基礎分野	単位数	1 単位	時間数	15 時間	期間	半期	回数	8 回	対象学年	3 年生
授業概要	高齢者の特性、起こりやすい疾病およびそのリハビリテーションの概要を学習する。 また、運動機能と各種評価についての理解を深める。										
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の特性やフレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアの概念を理解している。 ・運動器機能の評価方法、起こりやすい疾患の評価方法について理解している。 ・高齢者がかかりやすい疾患の特徴とリハビリテーションの流れについて理解している。 										
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 運動機能と種々の評価法1 第2週目 運動機能と種々の評価法2 第3週目 高齢者リハビリテーション1 第4週目 高齢者リハビリテーション2 第5週目 高齢者リハビリテーション3 第6週目 高齢者リハビリテーション4 第7週目 まとめ 第8週目 期末試験/解説 (授業の方法および自学学習について) <ul style="list-style-type: none"> ・授業資料は紙やオンラインで配布する。 ・Googleクラスルームを使用するため、接続できる端末を毎時間準備すること。 ・2年次に履修したリハビリテーション医学の内容を復習しておくことが望ましい。 ・全8回の授業のため欠席管理には十分に注意すること。 										
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション医学改訂第4版(南江堂) 上記を参考書とするため持参すること										
成績評価の方法	1: 期末試験(100%) 2: 欠課による減点 (欠課1回につき総合成績から5点を減点する) ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。										
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格										

授業科目名	柔道整復術の適応			授業形態	講義	教員名	奥田 晋作			
科目区分	専門基礎分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	3 年生
授業概要	接骨院を利用する患者の中には、本来、医科での診察治療が適切である疾患に罹患している場合があるため、どんな症状・徴候に留意しなければならないか、どんな場合に緊急性が高いのかなどを授業の中で学習していく。また、医科で行う画像診断学の基礎として、各画像検査の特徴を学習する。									
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復術の適応とならない症状・徴候を理解する。 2. 画像診断学の基礎を理解する。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 柔道整復術の適否を考える、損傷に類似した症状を示す疾患</p> <p>第2週目 血流障害を伴う損傷、末梢神経損傷を伴う損傷、脱臼骨折/外出血を伴う損傷、</p> <p>第3週目 病的骨折および脱臼</p> <p>第4週目 意識障害を伴う損傷</p> <p>第5週目 脊髄症状のある損傷、呼吸運動障害を伴う損傷</p> <p>第6週目 内臓損傷の合併が疑われる損傷/高エネルギー外傷</p> <p>第7週目 画像診断学の基礎1</p> <p>第8週目 画像診断学の基礎2</p> <p>第9週目 画像診断学の基礎3</p> <p>第10週目 画像診断学の基礎4</p> <p>第11週目 問題演習</p> <p>第12週目 問題演習</p> <p>第13週目 問題演習</p> <p>第14週目 問題演習</p> <p>第15週目 期末試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使用し、スライドを映しながら授業を行うことを基本とする。 ・講義形式を主体とするが、状況に応じてオンライン授業を取り入れる場合がある。 ・授業内で演習問題、レジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。 									
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・施術の適応と医用画像の理解(南江堂)、医療の中の柔道整復(南江堂)を教科書とする。 ・外科学(南江堂)、整形外科(南江堂)を補助として用いる場合がある。 									
成績評価の方法	<p>期末試験(80%)、出席点(20%)で成績評価する</p> <p>※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。</p>									
実践的教育に関する経歴等	医師									

授業科目名	関係法規			授業形態	講義	教員名	鈴木 美加			
科目区分	専門基礎分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	3 年生
授業概要	法の意義・体系、医療倫理、また柔道整復師法とその関連内容、その他の医療従事者の資格法を学び、柔道整復師としての社会的、医療的位置づけと規範の習得を図る。 その他、社会福祉・社会保険等社会保障制度の基礎を学ぶ。									
授業の到達目標	1) 法の意義・体系の基礎を習得し、素養を高める。 2) 柔道整復師の遵守すべき事項と罰則について習得し、柔道整復師としての認識を深める。 3) 患者の権利および医療遂行における医療従事者の遵守すべき事項を習得し、医療人としての素養を深める。 4) 社会保障制度の基礎を習得し、柔道整復師との関連性を認識できる。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 I 序論</p> <p>第2週目 I 序論、II 柔道整復師法</p> <p>第3週目 II 柔道整復師法</p> <p>第4週目 II 柔道整復師法</p> <p>第5週目 II 柔道整復師法、III A 医療従事者の資格法</p> <p>第6週目 III A 医療従事者の資格法</p> <p>第7週目 III A 医療従事者の資格法</p> <p>第8週目 III B 医療法</p> <p>第9週目 III B 医療法</p> <p>第10週目 社会保障制度、III C 社会福祉関係法規</p> <p>第11週目 III C 社会福祉関係法規、III D 社会保険関係法規</p> <p>第12週目 III D 社会保険関係法規</p> <p>第13週目 III E その他の関係法規、憲法、個人情報保護法</p> <p>第14週目 期末試験</p> <p>第15週目 試験解説、国民医療費、関係法規要点</p>									
	<p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を配布し、資料に基づいて授業を行うことを基本とする。 ・各章毎に問題を配布する。各自必ず行い、間違えたところは復習しておくこと。 ・授業中の携帯電話の使用(録音、録画等含む)、SNS等への投稿を認めない。 ・水分補給は、休憩時間に行うこと。 									
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会 監修『関係法規 2025年版』南江堂									
成績評価の方法	<p>期末試験の成績</p> <p>上記の項目が60点以上の場合に合格とする。</p> <p>※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。</p>									
実践的教育に関する経歴等	クリニック・整骨院勤務									

授業科目名	柔道Ⅱ			授業形態	実技	教員名	小原 賢			
科目区分	専門基礎分野	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	3 年生
授業概要	柔道の歴史と理念を通し医療人として的人格形成を修養する。 礼法・形・受身を鍛錬し習得する。									
授業の到達目標	柔道理念の更なる理解 礼法、投の形(手技・腰技・足技)、約束乱取の習得 認定実技審査									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 オリエンテーション 認定実技審査について 礼法・受け身</p> <p>第2週目 礼法・受け身・投の形(手技①浮落)</p> <p>第3週目 礼法・受け身・投の形(手技②背負投)</p> <p>第4週目 礼法・受け身・投の形(手技③肩車)</p> <p>第5週目 礼法・受け身・投の形(腰技①浮腰)</p> <p>第6週目 礼法・受け身・投の形(腰技②払腰)</p> <p>第7週目 礼法・受け身・投の形(腰技③釣込腰)</p> <p>第8週目 礼法・受け身・投の形(足技①送足払)</p> <p>第9週目 礼法・受け身・投の形(足技②支釣込足)</p> <p>第10週目 礼法・受け身・投の形(足技③内股)</p> <p>第11週目 礼法・受け身・投の形・約束乱取</p> <p>第12週目 礼法・受け身・投の形・約束乱取</p> <p>第13週目 実技試験の内容説明 資料配布</p> <p>第14週目 実技試験</p> <p>第15週目 実技試験の評価</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)柔道場にて実技の授業となる。柔道衣・装飾類に留意すること。</p> <p>2)個々の技能、能力により相助相譲し共同の目的のため修練する。</p> <p>3)実技試験にて評価する。</p> <p>4)授業終了後は当日の教室当番が清掃し教室へ戻ること。</p> <p>5)常時安全・衛生に留意する。</p>									
教科書・参考書等	「柔道」の教科書、WEB動画									
成績評価の方法	第14回 授業日に実技試験を実施。評価方法は、服装と態度(2点)、礼法(6点)、受け身(4点)、投の形(8点)、約束乱取(5点) 合計25点×4=100点とし、評価する。 評価内容は認定実技審査の評価表に則る。 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師、柔道整復師専科教員									

授業科目名	社会保障制度と療養費			授業形態	講義	教員名	鈴木 美加			
科目区分	専門基礎分野	単位数	1 単位	時間数	15 時間	期間	半期	8 回	対象学年	3 年生
授業概要	社会保障制度の基礎を学び、中でも医療保険制度や柔道整復師業務における療養費制度の概要について、また、医療経済の現状の知識を深める。									
授業の到達目標	1) わが国の社会保障制度を理解し、医療経済の現状から課題を探ることができる。 2) 柔道整復師業務における療養費について理解し、適正な取り扱いを知ることができる。 3) 職業倫理について理解し、柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応を習得する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 1 わが国の社会保障、グループワーク 第2週目 1 わが国の社会保障 第3週目 2 柔道整復師業務における療養費 第4週目 2 柔道整復師業務における療養費 第5週目 3 職業倫理 第6週目 3 職業倫理、グループワーク 第7週目 期末試験 第8週目 試験解説									
	(授業の方法および自学学習について) ・資料と教科書とを併用し授業を行うことを基本とする。 ・グループ・ディスカッションを行い、日常の施術等においての対応について自分たちの解決策を導き出す。 ・授業中の携帯電話の使用(録音、録画等含む)、SNS等への投稿を認めない。 ・水分補給は、休憩時間に行うこと。									
教科書・参考書等	・(社)全国柔道整復学校協会監修『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』(医歯薬出版)を教科書とする。									
成績評価の方法	①グループワークにおける発表(10%) ②期末試験の成績(90%) グループワークは計2回を予定しており、欠席した場合は、都度-5点とする。 ※第1回目講義日から行う。 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	クリニック・整骨院勤務									

授業科目名	基礎柔道整復学総合演習			授業形態	講義	教員名	谷藤 淳史/鈴木 美加			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生
授業概要	1)これまで学んできた柔道整復学の総論を見直し、各外傷の基礎を再確認する。 2)柔道、倫理、包帯法、関係法規、社会保障を復習し、理解を深める。									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各損傷の基礎を把握し、判断、鑑別点を説明できる。 法について種類を把握し、特に柔道整復師法とその関連内容について説明できる。 社会保障制度について理解し、療養費の位置付け・内容を説明できる。 									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習1) 第16週目 関係法規 第2週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習2) 第17週目 関係法規 第3週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習3) 第18週目 関係法規 第4週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習4) 第19週目 社会保障制度 第5週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習5) 第20週目 柔道整復師業務における療養費 第6週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習6) 第21週目 関節の損傷(捻挫、脱臼)A関節の構造と機能～F関節構成組織損傷 第7週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習7) 第22週目 脱臼 第8週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習8) 第23週目 筋損傷、腱損傷 第9週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習9) 第24週目 末梢神経損傷、診察 第10週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習10) 第25週目 整復法 第11週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習11) 第26週目 固定法 第12週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習12) 第27週目 後療法 第13週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習13) 第28週目 後療法、指導管理 第14週目 臨床的症状の基礎知識(問題演習14) 第29週目 後期期末試験 第15週目 前期期末試験・解説 第30週目 試験解答解説、問題演習 (授業の方法および自学学習について) 前期:問題演習と講義解説を行うことを基本とする。 後期:資料を配布し、資料に基づいて授業を行うことを基本とする。授業の最後に問題を配布するので各自実施すること。 ・授業中の携帯電話の使用(録音、録画等含む)、SNS等への投稿を認めない。 ・水分補給は、休憩時間に行うこと。									
教科書・参考書等	教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』南江堂 教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』南江堂 教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『関係法規2025年版』(株)医歯薬出版 教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』(株)医歯薬出版									
成績評価の方法	(前期) 小テスト(70%)及び前期末試験(30%)の成績の合計が60点以上の場合に合格とする。 ※小テストを欠席した者には、その理由を考慮し再評価の機会を与える場合があるが、最大6割評価とする。 (後期) 期末試験の成績 上記の項目が60点以上の場合に合格とする。 ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格(谷藤) 柔道整復師専科教員資格、クリニック・整骨院勤務(鈴木)									

授業科目名	柔道整復臨床論 I			授業形態	講義	教員名	古小高 朗浩			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生
授業概要	日常来院する患者は業務範囲内の患者のみとは限らず、これらの患者も正しく転医推奨しなければならない。また、患者の身体的特徴を理解するためには先天的な要因あるいは加齢によって生じる形態的变化を学ばなければならない。本講義では柔道整復学(各種外傷)と疾病との相違点を学び、臨床家としての高い技術の習得を目指す。									
授業の到達目標	・各種損傷と医科適応疾患との鑑別をもとに、医接連携の適否を判断できる。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 胸部損傷と医接連携の適否-1 第2週目 胸部損傷と医接連携の適否-2 第3週目 胸部損傷と医接連携の適否-3 第4週目 胸部損傷と医接連携の適否-4 第5週目 胸部損傷と医接連携の適否-5 第6週目 胸部損傷と医接連携の適否-6 第7週目 腹部損傷と医接連携の適否-1 第8週目 腹部損傷と医接連携の適否-2 第9週目 腹部損傷と医接連携の適否-3 第10週目 腹部損傷と医接連携の適否-4 第11週目 腹部損傷と医接連携の適否-5 第12週目 腹部損傷と医接連携の適否-6 第13週目 前期総復習 第14週目 前期試験 第15週目 前期試験返却、解説 第16週目 頭部損傷と医接連携の適否-1 第17週目 頭部損傷と医接連携の適否-2 第18週目 頭部損傷と医接連携の適否-3 第19週目 頭部損傷と医接連携の適否-4 第20週目 神経障害と医接連携の適否-1 第21週目 神経障害と医接連携の適否-2 第22週目 神経障害と医接連携の適否-3 第23週目 神経障害と医接連携の適否-4 第24週目 神経障害と医接連携の適否-5 第25週目 競技者の外傷予防 第26週目 競技者の外傷予防 第27週目 高齢者の外傷予防 第28週目 後期総復習 第29週目 後期試験 第30週目 後期試験返却、解説 (授業の方法および自学学習について) ・講義は黒板への板書を中心に進めていく。また、各色のチョークを頻繁に使用し板書するため、それに対応したペンを準備することが望ましい。									
教科書・参考書等	初回の授業で配布するプリントを毎授業で準備すること。									
成績評価の方法	(前期) ◆小テストの成績および期末試験成績にて評価する。 ・小テストは60点未満を不合格とし、その場合、期末試験成績より2点を減点する。(公欠対象の欠席の場合はこの限りではない) (後期) ◆小テストの成績および期末試験成績にて評価する。 ・小テストは60点未満を不合格とし、その場合、期末試験成績より2点を減点する。(公欠対象の欠席の場合はこの限りではない) ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

授業科目名	柔道整復臨床論Ⅱ			授業形態	講義	教員名	半澤 優/草刈 直貴			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生
授業概要	施術を行っていく上で、様々な疾病の病態を理解し、鑑別に必要な知識として医科適応疾患の徴候などを理解することが肝要となる。この授業では、適切に判断する上で必要な知識を整理し、接骨院と医科で行う治療の特徴や差異を学習していく。									
授業の到達目標	疾病について理解を深め、代表的な徴候や鑑別点について説明することができる。 接骨院と医科的治療の差異を理解する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 医科適応疾患との鑑別(一般外傷) 第16週目 上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別① 第2週目 医科適応疾患との鑑別(炎症性疾患) 第17週目 上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別② 第3週目 医科適応疾患の知識の整理① 第18週目 上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別③ 第4週目 医科適応疾患の知識の整理② 第19週目 上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別④ 第5週目 医科適応疾患の知識の整理③ 第20週目 上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別⑤ 第6週目 医科適応疾患の知識の整理④ 第21週目 手指骨折と整形外科疾患の鑑別① 第7週目 医科適応疾患の知識の整理⑤ 第22週目 手指骨折と整形外科疾患の鑑別② 第8週目 医科適応疾患の知識の整理⑥ 第23週目 小テスト 第9週目 胸部外傷の急性期対応について 第24週目 脊椎骨折と整形外科疾患の鑑別① 第10週目 医科適応疾患との鑑別(頭頸部の疾患) 第25週目 脊椎骨折と整形外科疾患の鑑別② 第11週目 医科適応疾患との鑑別(頭頸部の疾患) 第26週目 脊椎骨折と整形外科疾患の鑑別③ 第12週目 医科適応疾患との鑑別(胸部の疾患) 第27週目 脊椎骨折と整形外科疾患の鑑別④ 第13週目 医科適応疾患との鑑別(腹部の疾患) 第28週目 脊椎骨折と整形外科疾患の鑑別⑤ 第14週目 前期試験範囲まとめ 第29週目 期末テスト対策 第15週目 前期期末試験 第30週目 期末テスト (授業の方法および自学学習について) 【前期】 例題を用いて説明、理解、考察を促しながら進行する。 【後期】 板書を中心に進行する。プリントを配布するため、ノートは不要。									
教科書・参考書等	参考書 : (社)全国柔道整復学校協会監修『外科学概論(改訂第4版)』南江堂									
成績評価の方法	(前期)期末試験(100%) (後期)小テスト(30点満点)及び期末テスト(70点満点)を実施する。 ※小テストを欠席した者には、その理由を考慮し再評価の機会を与える場合があるが、最大6割評価とする。 ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	半澤:柔道整復師専科教員資格 草刈:柔道整復師専科教員資格									

授業科目名	柔道整復臨床論Ⅲ			授業形態	講義	教員名	菅野 貴宏																																	
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生																														
授業概要	患者さんの診察をしていく上で特徴的な症候を理解し、鑑別に必要な知識として医科適応疾患の徴候などを理解することが肝要となる。この授業では、診察時に適切に判断するために必要な知識を整理し、接骨院と医科で行う治療の特徴や差異を学習していく。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病や症候の概念を理解している。 ・医科で行われる各治療法の特徴を理解している。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 オリエンテーション/関連知識、用語の確認</td> <td>第16週目 オリエンテーション/関連知識、用語の確認</td> </tr> <tr> <td>第2週目 疾病と症候への理解</td> <td>第17週目 疾病と種々の評価法</td> </tr> <tr> <td>第3週目 疾病と症候への理解</td> <td>第18週目 疾病と種々の評価法</td> </tr> <tr> <td>第4週目 疾病と症候への理解</td> <td>第19週目 疾病と種々の評価法</td> </tr> <tr> <td>第5週目 疾病と症候への理解</td> <td>第20週目 疾病と種々の評価法</td> </tr> <tr> <td>第6週目 疾病と症候への理解</td> <td>第21週目 疾病と種々の評価法</td> </tr> <tr> <td>第7週目 疾病と症候への理解</td> <td>第22週目 疾病と種々の評価法</td> </tr> <tr> <td>第8週目 疾病と症候への理解</td> <td>第23週目 治療法とその差異</td> </tr> <tr> <td>第9週目 疾病と症候への理解</td> <td>第24週目 治療法とその差異</td> </tr> <tr> <td>第10週目 疾病と症候への理解</td> <td>第25週目 治療法とその差異</td> </tr> <tr> <td>第11週目 疾病と症候への理解</td> <td>第26週目 治療法とその差異</td> </tr> <tr> <td>第12週目 疾病と症候への理解</td> <td>第27週目 治療法とその差異</td> </tr> <tr> <td>第13週目 疾病と症候への理解</td> <td>第28週目 治療法とその差異</td> </tr> <tr> <td>第14週目 疾病と症候への理解</td> <td>第29週目 まとめ学習</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験/解説</td> <td>第30週目 試験/解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について) 資料は紙またはオンライン上で配布する。 Googleクラスルームを使用するため、接続できる端末を毎時間準備すること。 ・毎時間授業内で小テストを実施するので、授業への積極的参加を望む。(各学期13回程度を予定) ・小テストは6割以上の得点を合格とし、不合格時は翌週までのレポート提出を課す。(初回授業で説明)</p>										第1週目 オリエンテーション/関連知識、用語の確認	第16週目 オリエンテーション/関連知識、用語の確認	第2週目 疾病と症候への理解	第17週目 疾病と種々の評価法	第3週目 疾病と症候への理解	第18週目 疾病と種々の評価法	第4週目 疾病と症候への理解	第19週目 疾病と種々の評価法	第5週目 疾病と症候への理解	第20週目 疾病と種々の評価法	第6週目 疾病と症候への理解	第21週目 疾病と種々の評価法	第7週目 疾病と症候への理解	第22週目 疾病と種々の評価法	第8週目 疾病と症候への理解	第23週目 治療法とその差異	第9週目 疾病と症候への理解	第24週目 治療法とその差異	第10週目 疾病と症候への理解	第25週目 治療法とその差異	第11週目 疾病と症候への理解	第26週目 治療法とその差異	第12週目 疾病と症候への理解	第27週目 治療法とその差異	第13週目 疾病と症候への理解	第28週目 治療法とその差異	第14週目 疾病と症候への理解	第29週目 まとめ学習	第15週目 試験/解説	第30週目 試験/解説
第1週目 オリエンテーション/関連知識、用語の確認	第16週目 オリエンテーション/関連知識、用語の確認																																							
第2週目 疾病と症候への理解	第17週目 疾病と種々の評価法																																							
第3週目 疾病と症候への理解	第18週目 疾病と種々の評価法																																							
第4週目 疾病と症候への理解	第19週目 疾病と種々の評価法																																							
第5週目 疾病と症候への理解	第20週目 疾病と種々の評価法																																							
第6週目 疾病と症候への理解	第21週目 疾病と種々の評価法																																							
第7週目 疾病と症候への理解	第22週目 疾病と種々の評価法																																							
第8週目 疾病と症候への理解	第23週目 治療法とその差異																																							
第9週目 疾病と症候への理解	第24週目 治療法とその差異																																							
第10週目 疾病と症候への理解	第25週目 治療法とその差異																																							
第11週目 疾病と症候への理解	第26週目 治療法とその差異																																							
第12週目 疾病と症候への理解	第27週目 治療法とその差異																																							
第13週目 疾病と症候への理解	第28週目 治療法とその差異																																							
第14週目 疾病と症候への理解	第29週目 まとめ学習																																							
第15週目 試験/解説	第30週目 試験/解説																																							
教科書・参考書等	以下を参考書とする。配布資料と一緒に確認したい場合は持参すること。 解剖学改訂第3版(南江堂)、生理学改訂第4版(南江堂)、 病理学概論改訂第3版(医歯薬)、リハビリテーション医学改訂第4版(南江堂)																																							
成績評価の方法	次の項目により算出するが、各学期の得点が60点未満となる場合は学習課題を追加で課す場合がある。 1) 筆記試験(100%) 2) 小テスト成果(不合格時に筆記試験の点数から2点ずつ減点) 3) レポート等の課題成果(未提出や80%以上の正答率が無い場合は筆記試験から2点ずつ減点) ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格																																							

授業科目名	柔道整復学総合演習 I			授業形態	講義	教員名	草刈 直貴/菅野 貴宏			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生
授業概要	1)これまで学んできた柔道整復学の骨折、脱臼、軟部組織の損傷を総合的に見直し、各外傷との関連性・鑑別点を再確認する。 2)高齢者や競技者の身体特性から起こりやすい損傷やその予防法を学習する。									
授業の到達目標	・臨床上重要な骨折・脱臼及び軟部組織の特徴的な症候や合併症、予後などを理解し説明することができる。 ・高齢者や競技者に起こりやすい外傷とその予防法について理解する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 授業方法、到達目標に関する説明 第2週目 上腕骨類上骨折 第3週目 上腕骨類上骨折 第4週目 モンテギア骨折 第5週目 中手骨頸部骨折 第6週目 基節骨骨幹部～掌側板付着部裂離骨折 第7週目 遠位橈尺関節脱臼、月状骨脱臼 第8週目 肘頭骨折 第9週目 肩関節脱臼 第10週目 小テスト 第11週目 コーレス骨折 第12週目 鎖骨骨折 第13週目 上腕骨外科頸骨折 第14週目 上腕骨骨幹部骨折 第15週目 期末テスト 第16週目 オリエンテーション/下肢の骨折脱臼の理解 第17週目 下肢の骨折脱臼の理解 第18週目 下肢の骨折脱臼の理解 第19週目 下肢の骨折脱臼の理解 第20週目 下肢の骨折脱臼の理解 第21週目 下肢の骨折脱臼の理解 第22週目 下肢の骨折脱臼の理解 第23週目 下肢の骨折脱臼の理解 第24週目 下肢の骨折脱臼の理解 第25週目 下肢の骨折脱臼の理解 第26週目 下肢の骨折脱臼の理解 第27週目 下肢の骨折脱臼の理解 第28週目 まとめ学習 第29週目 まとめ学習 第30週目 筆記試験 (授業の方法および注意点) 前期:講義および筆記テスト(2回)を実施する。講義内容は、上記の順序から変更する場合があります。 後期:演習問題、レジメ等を配布するため、授業回ごとに整理しておくこと。 小テストを1回、第8回前後の時期に実施する。(詳細は後日案内) Googleクラスルームを使用するため、接続できる端末を準備して参加すること。									
教科書・参考書等	教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』南江堂 教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』南江堂									
成績評価の方法	(前期)小テスト(30点満点)および期末テスト(70点満点)の計2回の筆記テストを実施する。 (後期)①小テスト(40%)②筆記試験(60%)から算出するが、60点未満の場合に学習課題を追加で課す場合がある。 ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格(草刈、菅野)									

授業科目名	柔道整復学総合演習Ⅱ			授業形態	講義	教員名	谷藤淳史/津田新吾			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生
授業概要	谷藤担当分 これまで学んできた柔道整復学の各論を見直し、各外傷の基礎を再確認する。 津田担当分 運動器に生じる外傷や障害について、運動器系(頭部・体幹・脊柱四肢を含む)を抜粋し総合的に整理する。 身体各部の損傷の特徴を理解し、適切に判断・対応するための基盤を養う。									
授業の到達目標	谷藤担当分 各損傷の基礎を把握し、応用的に判断、鑑別点を説明できる。 津田担当分 ①骨折・脱臼・軟部組織損傷の特徴を理解し、臨床的に区別できる ②外傷に対する基本的な評価および対応を理解し、適切に判断できる									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 臨床的症状の応用知識(問題演習1) 第16週目 総合学習1 第2週目 臨床的症状の応用知識(問題演習2) 第17週目 総合学習2 第3週目 臨床的症状の応用知識(問題演習3) 第18週目 総合学習3 第4週目 臨床的症状の応用知識(問題演習4) 第19週目 総合学習4 第5週目 臨床的症状の応用知識(問題演習5) 第20週目 総合学習5 第6週目 臨床的症状の応用知識(問題演習6) 第21週目 総合学習6 第7週目 臨床的症状の応用知識(問題演習7) 第22週目 総合学習7 第8週目 臨床的症状の応用知識(問題演習8) 第23週目 総合学習8 第9週目 臨床的症状の応用知識(問題演習9) 第24週目 総合学習9 第10週目 臨床的症状の応用知識(問題演習10) 第25週目 総合学習10 第11週目 臨床的症状の応用知識(問題演習11) 第26週目 総合学習11 第12週目 臨床的症状の応用知識(問題演習12) 第27週目 総合学習12 第13週目 臨床的症状の応用知識(問題演習13) 第28週目 総合学習13 第14週目 臨床的症状の応用知識(問題演習14) 第29週目 総合学習14 第15週目 期末試験 第30週目 期末試験 (授業の方法および注意点) (前期) 問題演習と講義解説を行うことを基本とする。 (後期) 津田 授業内で問題演習を行うため、課題は設けない。各自で復習を行い、理解の定着に努めること。									
教科書・参考書等	①柔道整復学・理論編 改定第7版 ②柔道整復学・実技編 改訂第2版 (社)全国柔道整復学校協会監修『解剖学(改訂第2版)』医歯薬出版 (社)全国柔道整復学校協会監修『生理学(改訂第4版)』南江堂									
成績評価の方法	(前期) 谷藤:小テスト(70%)及び前期期末試験(30%)の成績の合計が60点以上の場合に合格とする。 ※小テストを欠席した者には、その理由を考慮し再評価の機会を与える場合があるが、最大6割評価とする。 (後期) 津田:期末試験100% 到達目標①・② 四択問題及び記述問題あり ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	谷藤:柔道整復師専科教員資格 津田:柔道整復師・柔道整復師専科教員・NSCA-CSCS									

授業科目名	柔道整復術適否の判断			授業形態	講義	教員名	半澤 優			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	3 年生
授業概要	<p>医科との連携において紹介状(施術情報提供書)の作成は基本である。本授業では、医科への紹介状(施術情報提供書)の作成方法を学ぶ。</p> <p>昨今の柔道整復師には超音波画像機器やレントゲン写真等の医科画像を読影できる能力が求められている。実技を交え、その能力を養う。</p>									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施術情報提供書が適切に作成でき、円滑な医科との連携体制を構築できる柔道整復師を目指す。 ・超音波画像機器を適切に使用し、読影することで日々の施術の補助として運用できる。 ・レントゲン写真等の読影が適切に行えることで医科との連携を円滑に運用できる。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 エコー／施術情報提供書 概論</p> <p>第2週目 エコー実技1 / 施術者情報提供書作成1</p> <p>第3週目 エコー実技2 / 施術者情報提供書作成2</p> <p>第4週目 エコー実技3 / 施術者情報提供書作成3</p> <p>第5週目 エコー実技4 / 施術者情報提供書作成4</p> <p>第6週目 臨床問題 概論</p> <p>第7週目 エコー実技6 / 医科画像の症例検討1</p> <p>第8週目 エコー実技7 / 医科画像の症例検討2</p> <p>第9週目 エコー実技8 / 医科画像の症例検討3</p> <p>第10週目 エコー実技9 / 医科画像の症例検討4</p> <p>第11週目 エコー実技10 / 医科画像の症例検討5</p> <p>第12週目 エコー実技11 / 医科画像の症例検討6</p> <p>第13週目 医科画像の症例検討7</p> <p>第14週目 期末試験</p> <p>第15週目 期末試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>本講義では、超音波画像機器(エコー)を実習する。持ち物として、エコー用ジェルをふき取る <u>ふきん</u> を数枚程度、持参すること。</p> <p>許可なく授業内容の撮影/録音/SNSへの投稿は禁止とする。</p> <p>授業中の飲料摂取を許可する。</p>									
教科書・参考書等	<p>(社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』 南江堂</p> <p>(社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』 南江堂</p> <p>他、授業内容に応じて資料を配布する。</p>									
成績評価の方法	<p>期末試験: 70%(70点満点)</p> <p>課題 : 30%(30点満点)</p> <p>※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。</p>									
実践的教育に関する経歴等	<p>柔道整復師専科教員免許</p> <p>接骨院勤務:5年／整形外科クリニック勤務:2年</p>									

授業科目名	柔道整復臨床実技 I			授業形態	実技	教員名	日時 誠																																	
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生																														
授業概要	本講義では、臨床上、柔道整復師が遭遇する機会が多い各損傷について、受傷機序や症状などを理解しながら、診察法や整復法、検査法などを学生が実技によって体験してゆくことで、立体的に学習していく。																																							
授業の到達目標	各傷病における病態を把握し、実技を通じて臨床症状や治療法、類似する傷病について理解を深める。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 鎖骨骨折 診察法・整復法・理論</td> <td>第16週目 上腕二頭筋長頭腱損傷 診察法・検査法・理論</td> </tr> <tr> <td>第2週目 鎖骨骨折 診察法・整復法・実技1</td> <td>第17週目 上腕二頭筋長頭腱損傷診察法・検査法・実技1</td> </tr> <tr> <td>第3週目 鎖骨骨折 診察法・整復法・実技2</td> <td>第18週目 上腕二頭筋長頭腱損傷診察法・検査法・実技2</td> </tr> <tr> <td>第4週目 肩鎖関節上方脱臼 診察法・整復法・理論</td> <td>第19週目 膝側副靭帯損傷 診察法・検査法・理論</td> </tr> <tr> <td>第5週目 肩鎖関節上方脱臼 診察法・整復法・実技1</td> <td>第20週目 膝側副靭帯損傷診察法・検査法・実技1</td> </tr> <tr> <td>第6週目 肩鎖関節上方脱臼 診察法・整復法・実技2</td> <td>第21週目 膝側副靭帯損傷診察法・検査法・実技2</td> </tr> <tr> <td>第7週目 肩関節前方脱臼 診察法・整復法・理論</td> <td>第22週目 膝十字靭帯損傷 診察法・検査法・理論</td> </tr> <tr> <td>第8週目 肩関節前方脱臼 診察法・整復法・実技1</td> <td>第23週目 膝十字靭帯損傷 診察法・検査法・実技1</td> </tr> <tr> <td>第9週目 肩関節前方脱臼 診察法・整復法・実技2</td> <td>第24週目 膝十字靭帯損傷 診察法・検査法・実技2</td> </tr> <tr> <td>第10週目 肩腱板損傷 診察法・検査法・理論</td> <td>第25週目 膝半月板損傷 診察法・検査法・理論</td> </tr> <tr> <td>第11週目 肩腱板損傷 診察法・検査法・実技1</td> <td>第26週目 膝半月板損傷診察法・検査法・実技1</td> </tr> <tr> <td>第12週目 肩腱板損傷 診察法・検査法・実技2</td> <td>第27週目 膝半月板損傷 診察法・検査法・実技2</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期総合演習</td> <td>第28週目 後期総合演習</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験 解説 前期総復習</td> <td>第30週目 後期期末試験 解説 前期総復習</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1) 座学による各疾患の診察・整復または検査についての理論的解説と、それらに基づいた実技演習を行い、各疾患について立体的に授業を進めてゆく。</p> <p>2) 各学生は、授業で学んだ重要点、留意点等を十分に反映させながら自学で練習を重ねて、実技技術の向上、習得に努めること。</p> <p>3) 自学の一環として少数グループによる実技試験形式の演習(小テスト)も実施する</p>										第1週目 鎖骨骨折 診察法・整復法・理論	第16週目 上腕二頭筋長頭腱損傷 診察法・検査法・理論	第2週目 鎖骨骨折 診察法・整復法・実技1	第17週目 上腕二頭筋長頭腱損傷診察法・検査法・実技1	第3週目 鎖骨骨折 診察法・整復法・実技2	第18週目 上腕二頭筋長頭腱損傷診察法・検査法・実技2	第4週目 肩鎖関節上方脱臼 診察法・整復法・理論	第19週目 膝側副靭帯損傷 診察法・検査法・理論	第5週目 肩鎖関節上方脱臼 診察法・整復法・実技1	第20週目 膝側副靭帯損傷診察法・検査法・実技1	第6週目 肩鎖関節上方脱臼 診察法・整復法・実技2	第21週目 膝側副靭帯損傷診察法・検査法・実技2	第7週目 肩関節前方脱臼 診察法・整復法・理論	第22週目 膝十字靭帯損傷 診察法・検査法・理論	第8週目 肩関節前方脱臼 診察法・整復法・実技1	第23週目 膝十字靭帯損傷 診察法・検査法・実技1	第9週目 肩関節前方脱臼 診察法・整復法・実技2	第24週目 膝十字靭帯損傷 診察法・検査法・実技2	第10週目 肩腱板損傷 診察法・検査法・理論	第25週目 膝半月板損傷 診察法・検査法・理論	第11週目 肩腱板損傷 診察法・検査法・実技1	第26週目 膝半月板損傷診察法・検査法・実技1	第12週目 肩腱板損傷 診察法・検査法・実技2	第27週目 膝半月板損傷 診察法・検査法・実技2	第13週目 前期総合演習	第28週目 後期総合演習	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験 解説 前期総復習	第30週目 後期期末試験 解説 前期総復習
第1週目 鎖骨骨折 診察法・整復法・理論	第16週目 上腕二頭筋長頭腱損傷 診察法・検査法・理論																																							
第2週目 鎖骨骨折 診察法・整復法・実技1	第17週目 上腕二頭筋長頭腱損傷診察法・検査法・実技1																																							
第3週目 鎖骨骨折 診察法・整復法・実技2	第18週目 上腕二頭筋長頭腱損傷診察法・検査法・実技2																																							
第4週目 肩鎖関節上方脱臼 診察法・整復法・理論	第19週目 膝側副靭帯損傷 診察法・検査法・理論																																							
第5週目 肩鎖関節上方脱臼 診察法・整復法・実技1	第20週目 膝側副靭帯損傷診察法・検査法・実技1																																							
第6週目 肩鎖関節上方脱臼 診察法・整復法・実技2	第21週目 膝側副靭帯損傷診察法・検査法・実技2																																							
第7週目 肩関節前方脱臼 診察法・整復法・理論	第22週目 膝十字靭帯損傷 診察法・検査法・理論																																							
第8週目 肩関節前方脱臼 診察法・整復法・実技1	第23週目 膝十字靭帯損傷 診察法・検査法・実技1																																							
第9週目 肩関節前方脱臼 診察法・整復法・実技2	第24週目 膝十字靭帯損傷 診察法・検査法・実技2																																							
第10週目 肩腱板損傷 診察法・検査法・理論	第25週目 膝半月板損傷 診察法・検査法・理論																																							
第11週目 肩腱板損傷 診察法・検査法・実技1	第26週目 膝半月板損傷診察法・検査法・実技1																																							
第12週目 肩腱板損傷 診察法・検査法・実技2	第27週目 膝半月板損傷 診察法・検査法・実技2																																							
第13週目 前期総合演習	第28週目 後期総合演習																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期期末試験 解説 前期総復習	第30週目 後期期末試験 解説 前期総復習																																							
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 講師作成のプリント																																							
成績評価の方法	<p>1) 各学期で実施する期末試験の成績 (60%)</p> <p>2) 実技小テストの成績(30% 授業内で随時実施)</p> <p>3) 出席状況(10%) : すべて出席した場合を10点とし、無断欠席1回につき3点を減点する</p> <p>※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	1)柔道整復専科教員免許 2)整骨院開業 3)柔道整復資格養成校非常勤講師 4)体育大学非常勤講師																																							

授業科目名	柔道整復臨床実技Ⅱ			授業形態	実技	教員名	日時 誠																																	
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生																														
授業概要	本講義では、临床上、柔道整復師が遭遇する機会が多い各損傷について、受傷機序や症状などを理解しながら、診察法や整復法、検査法などを学生が実技によって体験してゆくことで、立体的に学習していく。																																							
授業の到達目標	各傷病における病態を把握し、実技を通じて臨床症状や治療法、類似する傷病について理解を深める。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 コーレス骨折 診察法・整復法・理論</td> <td>第16週目 ハムストリングス肉ばなれ 診察法・検査法・理論</td> </tr> <tr> <td>第2週目 コーレス骨折 診察法・整復法・実技1</td> <td>第17週目 ハムストリングス肉ばなれ 診察法・検査法・実技1</td> </tr> <tr> <td>第3週目 コーレス骨折 診察法・整復法・実技2</td> <td>第18週目 ハムストリングス肉ばなれ 診察法・検査法・実技2</td> </tr> <tr> <td>第4週目 上腕骨外科頸外転型骨折 診察法・整復法・理論</td> <td>第19週目 大腿四頭筋打撲 診察法・検査法・理論</td> </tr> <tr> <td>第5週目 上腕骨外科頸外転型骨折 診察法・整復法・実技1</td> <td>第20週目 大腿四頭筋打撲 診察法・検査法・実技1</td> </tr> <tr> <td>第6週目 上腕骨外科頸外転型骨折 診察法・整復法・実技2</td> <td>第21週目 大腿四頭筋打撲 診察法・検査法・実技2</td> </tr> <tr> <td>第7週目 肘関節後方脱臼 診察法・整復法・理論</td> <td>第22週目 下腿三頭筋肉ばなれ 診察法・検査法・理論</td> </tr> <tr> <td>第8週目 肘関節後方脱臼 診察法・整復法・実技1</td> <td>第23週目 下腿三頭筋肉ばなれ 診察法・検査法・実技1</td> </tr> <tr> <td>第9週目 肘関節後方脱臼 診察法・整復法・実技2</td> <td>第24週目 下腿三頭筋肉ばなれ 診察法・検査法・実技2</td> </tr> <tr> <td>第10週目 肘内障 診察法・検査法・理論</td> <td>第25週目 足関節外側側副靭帯損傷 診察法・検査法・理論</td> </tr> <tr> <td>第11週目 肘内障 診察法・検査法・実技1</td> <td>第26週目 足関節外側側副靭帯損傷 診察法・検査法・実技1</td> </tr> <tr> <td>第12週目 肘内障 診察法・検査法・実技2</td> <td>第27週目 足関節外側側副靭帯損傷 診察法・検査法・実技2</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期総合演習</td> <td>第28週目 後期総合演習</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験 解説 前期総復習</td> <td>第30週目 後期期末試験 解説 前期総復習</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 座学による各疾患の診察・整復または検査についての理論的解説と、それらに基づいた実技演習を行い、各疾患について立体的に授業を進めてゆく。 2) 各学生は、授業で学んだ重要点、留意点等を十分に反映させながら自学で練習を重ねて、実技技術の向上、習得に努めること。 3) 自学の一環として少数グループによる実技試験形式の演習(小テスト)も実施する 										第1週目 コーレス骨折 診察法・整復法・理論	第16週目 ハムストリングス肉ばなれ 診察法・検査法・理論	第2週目 コーレス骨折 診察法・整復法・実技1	第17週目 ハムストリングス肉ばなれ 診察法・検査法・実技1	第3週目 コーレス骨折 診察法・整復法・実技2	第18週目 ハムストリングス肉ばなれ 診察法・検査法・実技2	第4週目 上腕骨外科頸外転型骨折 診察法・整復法・理論	第19週目 大腿四頭筋打撲 診察法・検査法・理論	第5週目 上腕骨外科頸外転型骨折 診察法・整復法・実技1	第20週目 大腿四頭筋打撲 診察法・検査法・実技1	第6週目 上腕骨外科頸外転型骨折 診察法・整復法・実技2	第21週目 大腿四頭筋打撲 診察法・検査法・実技2	第7週目 肘関節後方脱臼 診察法・整復法・理論	第22週目 下腿三頭筋肉ばなれ 診察法・検査法・理論	第8週目 肘関節後方脱臼 診察法・整復法・実技1	第23週目 下腿三頭筋肉ばなれ 診察法・検査法・実技1	第9週目 肘関節後方脱臼 診察法・整復法・実技2	第24週目 下腿三頭筋肉ばなれ 診察法・検査法・実技2	第10週目 肘内障 診察法・検査法・理論	第25週目 足関節外側側副靭帯損傷 診察法・検査法・理論	第11週目 肘内障 診察法・検査法・実技1	第26週目 足関節外側側副靭帯損傷 診察法・検査法・実技1	第12週目 肘内障 診察法・検査法・実技2	第27週目 足関節外側側副靭帯損傷 診察法・検査法・実技2	第13週目 前期総合演習	第28週目 後期総合演習	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験 解説 前期総復習	第30週目 後期期末試験 解説 前期総復習
第1週目 コーレス骨折 診察法・整復法・理論	第16週目 ハムストリングス肉ばなれ 診察法・検査法・理論																																							
第2週目 コーレス骨折 診察法・整復法・実技1	第17週目 ハムストリングス肉ばなれ 診察法・検査法・実技1																																							
第3週目 コーレス骨折 診察法・整復法・実技2	第18週目 ハムストリングス肉ばなれ 診察法・検査法・実技2																																							
第4週目 上腕骨外科頸外転型骨折 診察法・整復法・理論	第19週目 大腿四頭筋打撲 診察法・検査法・理論																																							
第5週目 上腕骨外科頸外転型骨折 診察法・整復法・実技1	第20週目 大腿四頭筋打撲 診察法・検査法・実技1																																							
第6週目 上腕骨外科頸外転型骨折 診察法・整復法・実技2	第21週目 大腿四頭筋打撲 診察法・検査法・実技2																																							
第7週目 肘関節後方脱臼 診察法・整復法・理論	第22週目 下腿三頭筋肉ばなれ 診察法・検査法・理論																																							
第8週目 肘関節後方脱臼 診察法・整復法・実技1	第23週目 下腿三頭筋肉ばなれ 診察法・検査法・実技1																																							
第9週目 肘関節後方脱臼 診察法・整復法・実技2	第24週目 下腿三頭筋肉ばなれ 診察法・検査法・実技2																																							
第10週目 肘内障 診察法・検査法・理論	第25週目 足関節外側側副靭帯損傷 診察法・検査法・理論																																							
第11週目 肘内障 診察法・検査法・実技1	第26週目 足関節外側側副靭帯損傷 診察法・検査法・実技1																																							
第12週目 肘内障 診察法・検査法・実技2	第27週目 足関節外側側副靭帯損傷 診察法・検査法・実技2																																							
第13週目 前期総合演習	第28週目 後期総合演習																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期期末試験 解説 前期総復習	第30週目 後期期末試験 解説 前期総復習																																							
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 講師作成のプリント																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各学期で実施する期末試験の成績(60%) 2) 実技小テストの成績(30% 授業内で随時実施) 3) 出席状況(10%) : すべて出席した場合を10点とし、無断欠席1回につき3点を減点する <p>※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	1)柔道整復専科教員免許 2)整骨院開業 3)柔道整復資格養成校非常勤講師 4)体育大学非常勤講師																																							

授業科目名	柔道整復臨床実技Ⅲ			授業形態	実技	教員名	古小高 朗浩																																	
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生																														
授業概要	これまで学習してきた柔道整復学や解剖学、運動学、包帯固定学をもとにして、理論に裏打ちされた骨折、脱臼、軟部組織の固定実技を実践する。また、認定実技審査や卒業後の外傷症例に対応できる力を養うことを目的とする。																																							
授業の到達目標	①各骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する固定の実技を習得する。 ②卒業後の外傷症例に対して対応できるように技能の習得を目的とする。																																							
授業内容・計画	(授業計画) <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">第1週目 鎖骨骨折の固定</td> <td style="width:50%;">第16週目 肘関節後方脱臼の固定</td> </tr> <tr> <td>第2週目 鎖骨骨折の固定</td> <td>第17週目 肘関節後方脱臼の固定</td> </tr> <tr> <td>第3週目 コーレス骨折の固定</td> <td>第18週目 手第2指PIP関節背側脱臼の固定</td> </tr> <tr> <td>第4週目 コーレス骨折の固定</td> <td>第19週目 手第2指PIP関節背側脱臼の固定</td> </tr> <tr> <td>第5週目 第5中手骨頸部骨折の固定</td> <td>第20週目 上腕骨骨幹部骨折の固定</td> </tr> <tr> <td>第6週目 第5中手骨頸部骨折の固定</td> <td>第21週目 上腕骨骨幹部骨折の固定</td> </tr> <tr> <td>第7週目 肋骨骨折の固定</td> <td>第22週目 固定総復習</td> </tr> <tr> <td>第8週目 肋骨骨折の固定</td> <td>第23週目 固定総復習</td> </tr> <tr> <td>第9週目 肩鎖関節上方脱臼の固定</td> <td>第24週目 固定総復習</td> </tr> <tr> <td>第10週目 肩鎖関節上方脱臼の固定</td> <td>第25週目 固定総復習</td> </tr> <tr> <td>第11週目 肩関節前方脱臼の固定</td> <td>第26週目 固定総復習</td> </tr> <tr> <td>第12週目 肩関節前方脱臼の固定</td> <td>第27週目 固定総復習</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期実技試験(前期期末試験)</td> <td>第28週目 固定総復習</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期実技試験(前期期末試験)</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期実技試験(前期期末試験)</td> <td>第30週目 後期試験返却/解説</td> </tr> </table> (授業の方法および自学学習について) ・実技授業の際は白衣を必ず着用すること。 ・認定実技審査の日程に合わせて、後期授業日程の一部を繰り上げて前期に実施する。										第1週目 鎖骨骨折の固定	第16週目 肘関節後方脱臼の固定	第2週目 鎖骨骨折の固定	第17週目 肘関節後方脱臼の固定	第3週目 コーレス骨折の固定	第18週目 手第2指PIP関節背側脱臼の固定	第4週目 コーレス骨折の固定	第19週目 手第2指PIP関節背側脱臼の固定	第5週目 第5中手骨頸部骨折の固定	第20週目 上腕骨骨幹部骨折の固定	第6週目 第5中手骨頸部骨折の固定	第21週目 上腕骨骨幹部骨折の固定	第7週目 肋骨骨折の固定	第22週目 固定総復習	第8週目 肋骨骨折の固定	第23週目 固定総復習	第9週目 肩鎖関節上方脱臼の固定	第24週目 固定総復習	第10週目 肩鎖関節上方脱臼の固定	第25週目 固定総復習	第11週目 肩関節前方脱臼の固定	第26週目 固定総復習	第12週目 肩関節前方脱臼の固定	第27週目 固定総復習	第13週目 前期実技試験(前期期末試験)	第28週目 固定総復習	第14週目 前期実技試験(前期期末試験)	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期実技試験(前期期末試験)	第30週目 後期試験返却/解説
第1週目 鎖骨骨折の固定	第16週目 肘関節後方脱臼の固定																																							
第2週目 鎖骨骨折の固定	第17週目 肘関節後方脱臼の固定																																							
第3週目 コーレス骨折の固定	第18週目 手第2指PIP関節背側脱臼の固定																																							
第4週目 コーレス骨折の固定	第19週目 手第2指PIP関節背側脱臼の固定																																							
第5週目 第5中手骨頸部骨折の固定	第20週目 上腕骨骨幹部骨折の固定																																							
第6週目 第5中手骨頸部骨折の固定	第21週目 上腕骨骨幹部骨折の固定																																							
第7週目 肋骨骨折の固定	第22週目 固定総復習																																							
第8週目 肋骨骨折の固定	第23週目 固定総復習																																							
第9週目 肩鎖関節上方脱臼の固定	第24週目 固定総復習																																							
第10週目 肩鎖関節上方脱臼の固定	第25週目 固定総復習																																							
第11週目 肩関節前方脱臼の固定	第26週目 固定総復習																																							
第12週目 肩関節前方脱臼の固定	第27週目 固定総復習																																							
第13週目 前期実技試験(前期期末試験)	第28週目 固定総復習																																							
第14週目 前期実技試験(前期期末試験)	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期実技試験(前期期末試験)	第30週目 後期試験返却/解説																																							
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編																																							
成績評価の方法	・前期の成績評価は実技試験の成績をもって評価する。 ・後期の成績評価は筆記試験の成績をもって評価する。 ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格																																							

授業科目名	柔道整復臨床実技Ⅳ			授業形態	講義	教員名	津田 新吾			
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	3 年生
授業概要	下肢疾患を想定した実技を通して、卒後に臨床で遭遇するであろう代表的な疾患に対し、健常者を対象に、適切な対応ができる能力を養うことを目的とする。									
授業の到達目標	① 下肢の代表的疾患の病態を説明できる ② 安全に配慮した固定法が実施ができる ③ 固定に関して一連の流れを実践できる									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 包帯: 下腿骨骨幹部 第2週目 包帯: 下腿骨骨幹部 第3週目 包帯: 足関節 第4週目 包帯: 足関節 第5週目 包帯: アキレス腱断裂 第6週目 包帯: アキレス腱断裂 第7週目 実技テスト① 第8週目 テープ: 足関節バスケットウィーブ 第9週目 テープ: 足関節バスケットウィーブ 第10週目 テープ: フィギュアエイト・ヒールロック固定 第11週目 テープ: フィギュアエイト・ヒールロック固定 第12週目 テープ: 膝MCL 第13週目 テープ: 膝MCL 第14週目 実技テスト② 第15週目 期末試験 (授業の方法および注意点) 実技試験は2回実施する。公欠の場合は、時間外で対応するが公欠でない場合は対応しない。 期末試験は、上記範囲の疾患の内容(国家試験問題に準ずる)で作成する。 授業外での課題は設けない。各自で復習を行い、理解の定着に努めること。									
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、包帯固定学									
成績評価の方法	期末試験 80% 到達目標① 実技試験 20% 到達目標②③ (10%×2回) ※期末試験4択及び記述あり 実技評価基準2回 S(20) 適切な手順で十分正確に実施ができる A(15) 適切な手順で正確に実施ができる B(10) 適切な手順である程度正確に実施ができる C(5) ある程度行えるが、技術の正確性に欠ける D(0) 説明と実施がまったくできない ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

授業科目名	臨床実習Ⅲ			授業形態	実習	教員名	佐々木 俊尚																																	
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	45 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生																														
授業概要	柔道整復師として接骨院で勤務するにあたり、基本となる知識や技能の修練を積み、これまで学習してきた内容をしっかりと実践できるようにすることを主題とする。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体状態に関する情報を収集し、正しく評価することができる。 ・傷病予防の方法や効果を理解する。 ・傷病に対して治療方針を考察し、説明することができる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第16週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第2週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第17週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第3週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第18週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第4週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第19週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第5週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第20週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第6週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第21週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第7週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第22週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第8週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第23週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第9週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第24週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第10週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第25週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第11週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第26週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第12週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第27週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第13週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第28週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第14週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第29週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第15週目 評価と施術の総合的実習</td> <td>第30週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施術所での実習のため、身だしなみや衛生環境に特に注意すること。 ・やむを得ない場合(公欠事由)を除き、<u>欠席は認められない</u>ので注意すること。 <p>提出物は、必ず定められた期間内に提出する事</p>										第1週目 評価と施術の総合的実習	第16週目 評価と施術の総合的実習	第2週目 評価と施術の総合的実習	第17週目 評価と施術の総合的実習	第3週目 評価と施術の総合的実習	第18週目 評価と施術の総合的実習	第4週目 評価と施術の総合的実習	第19週目 評価と施術の総合的実習	第5週目 評価と施術の総合的実習	第20週目 評価と施術の総合的実習	第6週目 評価と施術の総合的実習	第21週目 評価と施術の総合的実習	第7週目 評価と施術の総合的実習	第22週目 評価と施術の総合的実習	第8週目 評価と施術の総合的実習	第23週目 評価と施術の総合的実習	第9週目 評価と施術の総合的実習	第24週目 評価と施術の総合的実習	第10週目 評価と施術の総合的実習	第25週目 評価と施術の総合的実習	第11週目 評価と施術の総合的実習	第26週目 評価と施術の総合的実習	第12週目 評価と施術の総合的実習	第27週目 評価と施術の総合的実習	第13週目 評価と施術の総合的実習	第28週目 評価と施術の総合的実習	第14週目 評価と施術の総合的実習	第29週目 評価と施術の総合的実習	第15週目 評価と施術の総合的実習	第30週目 評価と施術の総合的実習
第1週目 評価と施術の総合的実習	第16週目 評価と施術の総合的実習																																							
第2週目 評価と施術の総合的実習	第17週目 評価と施術の総合的実習																																							
第3週目 評価と施術の総合的実習	第18週目 評価と施術の総合的実習																																							
第4週目 評価と施術の総合的実習	第19週目 評価と施術の総合的実習																																							
第5週目 評価と施術の総合的実習	第20週目 評価と施術の総合的実習																																							
第6週目 評価と施術の総合的実習	第21週目 評価と施術の総合的実習																																							
第7週目 評価と施術の総合的実習	第22週目 評価と施術の総合的実習																																							
第8週目 評価と施術の総合的実習	第23週目 評価と施術の総合的実習																																							
第9週目 評価と施術の総合的実習	第24週目 評価と施術の総合的実習																																							
第10週目 評価と施術の総合的実習	第25週目 評価と施術の総合的実習																																							
第11週目 評価と施術の総合的実習	第26週目 評価と施術の総合的実習																																							
第12週目 評価と施術の総合的実習	第27週目 評価と施術の総合的実習																																							
第13週目 評価と施術の総合的実習	第28週目 評価と施術の総合的実習																																							
第14週目 評価と施術の総合的実習	第29週目 評価と施術の総合的実習																																							
第15週目 評価と施術の総合的実習	第30週目 評価と施術の総合的実習																																							
教科書・参考書等																																								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の提出、各指定されたレポートの提出をもって評価する。減点方式とする。 ・出席状況：欠課1につき5点減点、遅刻1につき3点減点とする。 ・白衣不着用：3点減点とする。 ・実習記録の提出 * 未提出、超過は5点減点、内容の不足や未記入箇所がある場合は都度3点減点とする。 ・レポートの提出 * 未提出、超過は5点減点、内容の不足や未記入箇所がある場合は都度3点減点とする。 <p>※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	・柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格																																							

授業科目名	臨床実習Ⅳ			授業形態	実技	教員名	専任教員																																	
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	45 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生																														
授業概要	柔道整復師として接骨院で勤務するにあたり、基本となる知識や技能の修練を積み、これまで学習してきた内容をしっかり実践できるようにすることを主題とする。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体状態に関する情報を収集し、正しく評価することができる。 ・身体所見から損傷程度を想定し、適切な初期処置を実施することができる。 ・施術録や療養費支給申請書の書き方を理解する。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 患者接遇と医療倫理</td> <td>第16週目 身体診察と施術</td> </tr> <tr> <td>第2週目 測定評価とIC</td> <td>第17週目 身体診察と施術</td> </tr> <tr> <td>第3週目 測定評価とIC</td> <td>第18週目 身体診察と施術</td> </tr> <tr> <td>第4週目 身体診察</td> <td>第19週目 身体診察と施術</td> </tr> <tr> <td>第5週目 身体診察</td> <td>第20週目 身体診察と施術</td> </tr> <tr> <td>第6週目 運動療法</td> <td>第21週目 身体診察と施術</td> </tr> <tr> <td>第7週目 運動療法</td> <td>第22週目 療養費と療養費支給申請書</td> </tr> <tr> <td>第8週目 施術録の取扱い</td> <td>第23週目 身体診察と施術</td> </tr> <tr> <td>第9週目 身体診察と施術</td> <td>第24週目 身体診察と施術</td> </tr> <tr> <td>第10週目 身体診察と施術</td> <td>第25週目 身体診察と施術</td> </tr> <tr> <td>第11週目 身体診察と施術</td> <td>第26週目 身体診察と施術</td> </tr> <tr> <td>第12週目 身体診察と施術</td> <td>第27週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第13週目 身体診察と施術</td> <td>第28週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第14週目 身体診察と施術</td> <td>第29週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> <tr> <td>第15週目 身体診察と施術</td> <td>第30週目 評価と施術の総合的実習</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施術所での実習のため、身だしなみや衛生環境に特に注意すること。 ・出席状況も成績評価に含まれるため、できるだけ欠席せずに全日程に参加すること。 ・提出物は期日までに提出すること ・欠席時は担当教員に申し出て実習記録を受け取ること。 <p>(紛失した場合は再配布しない)</p>										第1週目 患者接遇と医療倫理	第16週目 身体診察と施術	第2週目 測定評価とIC	第17週目 身体診察と施術	第3週目 測定評価とIC	第18週目 身体診察と施術	第4週目 身体診察	第19週目 身体診察と施術	第5週目 身体診察	第20週目 身体診察と施術	第6週目 運動療法	第21週目 身体診察と施術	第7週目 運動療法	第22週目 療養費と療養費支給申請書	第8週目 施術録の取扱い	第23週目 身体診察と施術	第9週目 身体診察と施術	第24週目 身体診察と施術	第10週目 身体診察と施術	第25週目 身体診察と施術	第11週目 身体診察と施術	第26週目 身体診察と施術	第12週目 身体診察と施術	第27週目 評価と施術の総合的実習	第13週目 身体診察と施術	第28週目 評価と施術の総合的実習	第14週目 身体診察と施術	第29週目 評価と施術の総合的実習	第15週目 身体診察と施術	第30週目 評価と施術の総合的実習
第1週目 患者接遇と医療倫理	第16週目 身体診察と施術																																							
第2週目 測定評価とIC	第17週目 身体診察と施術																																							
第3週目 測定評価とIC	第18週目 身体診察と施術																																							
第4週目 身体診察	第19週目 身体診察と施術																																							
第5週目 身体診察	第20週目 身体診察と施術																																							
第6週目 運動療法	第21週目 身体診察と施術																																							
第7週目 運動療法	第22週目 療養費と療養費支給申請書																																							
第8週目 施術録の取扱い	第23週目 身体診察と施術																																							
第9週目 身体診察と施術	第24週目 身体診察と施術																																							
第10週目 身体診察と施術	第25週目 身体診察と施術																																							
第11週目 身体診察と施術	第26週目 身体診察と施術																																							
第12週目 身体診察と施術	第27週目 評価と施術の総合的実習																																							
第13週目 身体診察と施術	第28週目 評価と施術の総合的実習																																							
第14週目 身体診察と施術	第29週目 評価と施術の総合的実習																																							
第15週目 身体診察と施術	第30週目 評価と施術の総合的実習																																							
教科書・参考書等																																								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況と各提出物の提出状況をもとに減点方式で評価する 減点5: ①公欠以外の欠席、②実習記録やレポートの未提出や期限超過がある場合 減点3: ①遅刻や早退、②不適切な身だしなみ、③実習記録やレポートの内容不備、未記入がある場合 <p>※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格 ・接骨院等での勤務歴 																																							

授業科目名	健康増進と介護予防			授業形態	講義	教員名	佐々木 俊尚			
科目区分	選択必修科目	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	3 年生
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●介護予防とは何か理解する。 ●介護現場での柔整師の役割を理解する。 									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の高齢化の現状と介護予防の必要性を理解する。 ・柔整師としての介護現場とのかかわり方を理解する。 ・実際に高齢者向けの機能訓練を行うことが出来る。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1週目 オリエンテーション 第2週目 介護予防とは 第3週目 日本の現状とこれから 第4週目 柔整師としてどのように介護と関わるか 第5週目 機能訓練とは 第6週目 高齢者トレーニングの考え方 第7週目 機能訓練実践① 第8週目 評価項目と評価方法 第9週目 機能訓練評価実践① 第10週目 機能訓練実践②マシントレーニング 第11週目 機能訓練実践③転倒予防 第12週目 機能訓練実践④失禁予防 第13週目 ここまでのまとめ 第14週目 期末試験 第15週目 試験解説 <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板を使用し、板書にて授業を行い、実技も行う。 ・実技の際は本番(現場)同様にしっかりと声を出すこと。 ・実技に関しては各自復習を行うこと。 									
教科書・参考書等	プリント配布予定。									
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ①期末試験の成績(80%) ②出席状況(10%):すべて出席した場合を10点とし、欠席1回につき2点を減点する ③授業態度(10%):優10点、良7点、可5点、劣0点で評価する。 <p>※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。</p>									
実践的教育に関する経歴等	①介護予防主任運動指導員資格保持 ②介護予防運動指導員講座多数開催実績有									

授業科目名	健康と栄養			授業形態	講義	教員名	岩田 純			
科目区分	選択必修科目	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	3 年生
授業概要	初めに、エネルギーおよび各栄養素の役割など栄養学の基本的事項について説明する。そして、身体組成と活動量からエネルギー必要量を算出する方法を紹介し、健康維持及び運動時の栄養摂取について具体的な食事例を示しながら説明する。									
授業の到達目標	1)エネルギーおよび各栄養素と健康の関わりについて説明できる。 2)運動時の栄養摂取について説明できる。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 オリエンテーション、健康作りの三要素 第2週目 エネルギー源となる糖質・脂質 第3週目 からだづくりに必要なたんぱく質 第4週目 ビタミン・ミネラルの役割 第5週目 小テストⅠ、身体組成と測定方法 第6週目 エネルギー消費量 第7週目 推定エネルギー消費量 第8週目 日常の食事 第9週目 小テストⅡ、疲労回復の食事 第10週目 体重調節と食事 第11週目 試合期の食事 第12週目 小テストⅢ、体温調節と水分補給 第13週目 まとめ及び確認のテスト 第14週目 期末試験 第15週目 試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書および配布資料に沿って、パワーポイントを使用して授業を進める。 ・3～4つの単元ごとに小テストを実施する。 ・筆記試験の前週には試験範囲と同様の内容で確認のテストを実施する。 ・小テストや確認のテストで理解が不十分な箇所を確認し、復習をしておくこと。 									
教科書・参考書等	スポーツ栄養学(アイ・ケイ・コーポレーション)岩田純編著									
成績評価の方法	①小テスト3回分(30%) ②期末試験(50%) ③課題提出(20%) ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	①病院栄養士勤務歴5年 ②管理栄養士免許 ③公認スポーツ栄養士									